

2020年度 特別研究推進費実績報告書

2021年 4月 8日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部・准教授
(氏名) 李 東俊

2020年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、
次のとおり報告します。

研究課題名	1960年代前半における「ライシャワー (Edwin O. Reischauer) 攻勢」と日韓関係および言説空間の再編					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>本研究では、1950年代後半～1960年代前半にかけてアメリカの近代化論 (modernization theory) や開発主義史観が、日本と韓国における言説空間の再編、ひいては日韓関係の再構築に深く関わった経緯を研ぎほぐすべく、とりわけ代表的な日本近代化論者と称されるライシャワー (Edwin O. Reischauer) が日韓の学术界やエリット社会に向けて「文化冷戦」の一環として猛烈に展開した知的かつ政治的な宣伝工作活動と、それに対する日韓両国における言説空間の変容を原資料に基づいて分析してきた。このことは、歴史や法の解釈をめぐって深刻な亀裂を生んだ昨今の日韓関係の根源を捉え直す作業でもあるが、より具体的には、「1965年体制」とも言われる日韓関係の構造やそれを言説的に支えてきた「冷戦リベラル・ネットワーク」の生成と変容を、「厚い叙述」 (thick description) をもって再構成するという、「やや長く幅が広い」物語の道程である。</p> <p>このような趣旨の下、本研究では、2020年度に、ライシャワー本人の全著作を含む膨大な先行研究を全面的に再検討するとともに、関連基礎資料および新資料の調査・収集と、かかる分析作業を丹念に進めてきた。かかる研究結果はとりあえず、「ライシャワーの文化冷戦と日韓関係の変容：1960年代前半における近代化論の展開を中心に (その1・2)」『北九州市立大学・外国語学部紀要』第151・152号 (2020年11月・2021年3月)、27-87・69-103頁の2編の論文に収められ、公刊された。</p> <p>しかし、これら2編の論文をもって、ライシャワーに象徴される日本近代化論や開発主義史観と日韓関係の変容との相関性が究明されるとは到底言い難い。したがって、本研究では、2021年度にもかかる問題意識をさらに掘り下げていき、更に2編の論文を連続的に作成したうえで、計4編の論文をもって2022年には単行本として「やや長く幅が広い」物語を取りまとめるつもりである。</p>					
	合計	使用内訳 (単位：円)				
交付決定額	490,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	490,000		120,514			369,486
執行残額	0					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	